

## 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)会議概要

1	審議会名 安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第3回)
2	日 時 平成30年3月8日 午前9時00分から午前10時45分まで
3	会 場 安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室(東)
4	出 席 者 板花守夫委員、丸山秀子委員、池上康文委員、東本優子委員、藤松伸二郎委員 三澤郁子委員、丸山大悟委員、高橋正光委員、興智幸委員、中島完二委員 齋藤岳雄委員、久保田敏彦委員、丸山栄一委員、浅川増行委員、中田平男委員、 池上洋助委員、丸山昌則委員、小池晃委員、須澤佳正委員
5	市側出席者 大向部長、大竹課長、丸山課長、平川局長、上野課長補佐、太谷課長補佐、矢花課長補佐、 百瀬係長、中村係長、丸山係長、山田係長、高山次長、二村副主幹、赤須主査
6	公開・非公開の別 公開
7	傍聴人 0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日 平成30年3月16日

### 協 議 事 項 等

打合内容	<p>1 会議の概要</p> <p>(1) 開会(大竹課長)</p> <p>(2) あいさつ(板花委員長)</p> <p>(3) 協議事項</p> <p style="padding-left: 20px;">①「市農業・農村振興計画に係る平成28年度実施状況の点検・評価の結果」</p> <p>(4) 閉会(大竹課長)</p> <p>2 協議の概要</p> <p>&lt;委員の主な意見&gt;</p> <p><b>【お米について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営農計画書を提出するにあたり、どのくらい安曇野市では米を作れるのか等の情報を早めに出してもらいたい。急に、まだ作れるからと言ってもすぐには対応できない。なるべく早く情報を発信してもらいたい。</li> <li>・ブランド作りは、実績を作ることも大事ではないか。例えば、新潟のように「美味しいお米食味コンクール」で入賞するお米を作るなど、ブランド化につなげるような取り組みをしたらどうか。</li> </ul> <p><b>【ブランド化について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導体制の弱体化が課題である。指導体制をきちんとして生産者も一致団結する必要があるのではないか。</li> <li>・生産産地の育成のための補助が必要ではないか。</li> </ul> <p><b>【食育等取り組みについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の環境も幅広くなれば、子どもたちがその地域に根付いていくのではないかと感じる。現在の取り組みも効果が少しずつではあるが現れているところもあると感じる。</li> <li>・荒廃農地の解消作業等、実際に子供たちが農業に関わることや、地域の農家の人の色々な話を聞くことで子供たちの意識が変わっていくと感じる。</li> <li>・田園と産業のせめぎ合いを生かして農業ではこんなことに困っているというような農家の困っているこんなことを変えたいというような企業とのプラットフォームを作れたら良いと思う。</li> </ul>
------	--

・保育園での食育は大変有効的であると考えている。生産者との交流も心豊かになると感じられる。食育の継続は、将来、地元の人が地元で農業をしたいと思う人が増やすことにも有効的だと考える。

**【後継者対策について】**

・農業に携わる人がいかに営農しながら自分の生活を豊かに送ることが重要である。その中で、生活マスターなどの活動にも参加することができ、後継者確保にもつながるのではないかと。  
・小、中学校において、地域を大事にすることを学ばせることが後継者対策にもつながると思う。これまでの教育にもう一步、踏み込んだ具体的な現場の話が聞けることが重要ではないかと。

**【情報発信について】**

・情報発信の担当者が必要である。具体的な情報の共有は今後の農業振興のための指針となり、熱意をもって取り組むことにつながるのではないかと。

**【荒廃農地対策について】**

・荒廃農地を解消しても、生産者(後継者)の不足を感じる。興味のある人を募り、成功体験をしてもらうことで就農したい人が増えるのではないかと。農業の経験がある人は荒廃農地の解消に積極的に取り組む活動も大事であると感じる。

**【その他】**

・集落営農組織だけでなく、大規模農家を主とした新たな組織づくりも必要。高齢化している現状を受けて、大規模農家を核とした組織づくりが重要になってくるのではないかと。  
・グローバルギャップについて、今後、情報提供や指導をお願いしたい。

以上